Djangoを最速でマスタ 一する part2

Django Python3

この記事は最終更新日から1年以上が経過しています。

進捗

2017/11/3 現在

第1章 完成

第2章 完成

第3章 完成

今回やること

前回の記事で作ったDjangoアプリを拡張させて行きます。

これからの拡張の具体的な内容としては、

	(前半) Django自体の 説明	(後半) Django自体の説明+DockerやMySQLな どとの連携	
1章	Django Debug Toolbar の導入	DjangoアプリをDocker上で動かしてみる	
2章	ログイン機能の実装	MySQLを使用する	
3章	Hijack機能の実装	SQL文の効率化と高速化(Django組み込み関数を 使う)	
4章	カスタムtag・カスタム filter	SQL文の効率化と高速化(自作関数を使う)	
5章	Form	Ajaxを使った高度な通信	
6章	自動テストを書こう	(追加予定あり)	

といった感じで進めて行こうと思います。

前後半かけて、重箱のすみをつついたような部分まで解説することを目指します。

一回目の記事とは違い、**随時更新**という形で公開していこうと思っています。

なので、**説明のリクエストとかを受けますので、希望があれ ばコメントでおしらせください**。

時間と能力の可能な限り対応します。

また、章の内容によっては作っているサイトのデータ的に合わない場合があるので、その時はドキュメントを詳しく説明します。

1章 Django Debug Toolbarの導 入

Django自体の機能とは関係ないですが、これがあるのとないのでは開発の効率が全然違ってくるので導入することをオススメします。

*公式ドキュメント

上の公式ドキュメントに従いながら導入して行きます。

まずはインストールしてきます。

\$ pip install django-debug-toolbar

以下をurls.pyに追加してください(前回分とのマージ結果はGithubのレポジトリを参考にしてください!)

```
from django.conf import settings
from django.conf.urls import include, url

if settings.DEBUG:
   import debug_toolbar
   urlpatterns += [
       url(r'^_debug__/', include(debug_toolbar.urls)),
   ]
```

settings.py で DEBUG=True となっている時だけDebug Toolbarが現れるようになります。

settings.pyでDjangoにインストールしたアプリを教えてあげましょう。

```
settings.py

INSTALLED_APPS = [
   'django.contrib.admin',
   'django.contrib.auth',
   'django.contrib.contenttypes',
   'django.contrib.sessions',
```

```
'django.contrib.messages',
'django.contrib.staticfiles', # これがあることを確認(なけれ)
'debug_toolbar', # 追加部分
'manager',
```

Debug Toolbarをミドルウェアの中に設置します。

TODO

おそらくMIDDLEWAREを変更しただけでいいはずなのですが、MIDDLEWARECLASSにも追加しないとDebug Toolbarが現れてくれなかった。

その説明を書きたい(でもなぜかわからないので、分かる方、ご教授ください)。

```
settings.py
```

```
MIDDLEWARE = [
   'django.contrib.sessions.middleware.SessionMiddleware',
   'django.middleware.common.CommonMiddleware',
   'django.middleware.csrf.CsrfViewMiddleware',
   'django.contrib.auth.middleware.AuthenticationMiddleware',
   'django.contrib.auth.middleware.SessionAuthenticationMiddleware')
```

```
'django.contrib.messages.middleware.MessageMiddleware',
    'django.middleware.clickjacking.XFrameOptionsMiddleware',
    'django.middleware.security.SecurityMiddleware',
    'debug toolbar.middleware.DebugToolbarMiddleware',
                                                        # 追加
1
MIDDLEWARE CLASSES = [
    'django.middleware.security.SecurityMiddleware',
    'django.contrib.sessions.middleware.SessionMiddleware',
    'django.middleware.common.CommonMiddleware',
    'django.middleware.csrf.CsrfViewMiddleware',
    'django.contrib.auth.middleware.AuthenticationMiddleware',
    'django.contrib.auth.middleware.SessionAuthenticationMiddle
    'django.contrib.messages.middleware.MessageMiddleware',
    'django.middleware.clickjacking.XFrameOptionsMiddleware',
    'debug_toolbar.middleware.DebugToolbarMiddleware',
1
```

あとは Debug Toolbarが現れるように settings.py に以下を 追加します。

```
settings.py

# Debug Toolbar

DEBUG = True
```

```
if DEBUG:
    INTERNAL_IPS = ['127.0.0.1', 'localhost']
    def custom show toolbar(request):
        return True
    DEBUG TOOLBAR PANELS = [
        'debug toolbar.panels.timer.TimerPanel',
        'debug toolbar.panels.request.RequestPanel',
        'debug toolbar.panels.sql.SQLPanel',
        'debug toolbar.panels.templates.TemplatesPanel',
        'debug_toolbar.panels.cache.CachePanel',
        'debug toolbar.panels.logging.LoggingPanel',
    DEBUG TOOLBAR CONFIG = {
        'INTERCEPT REDIRECTS': False,
        'SHOW TOOLBAR CALLBACK': custom show toolbar,
        'HIDE DJANGO SQL': False,
        'TAG': 'div',
        'ENABLE STACKTRACES': True,
    }
```

これで設定は完了です。

あとは Debug Toolbarのstaticファイルを落としてきます。

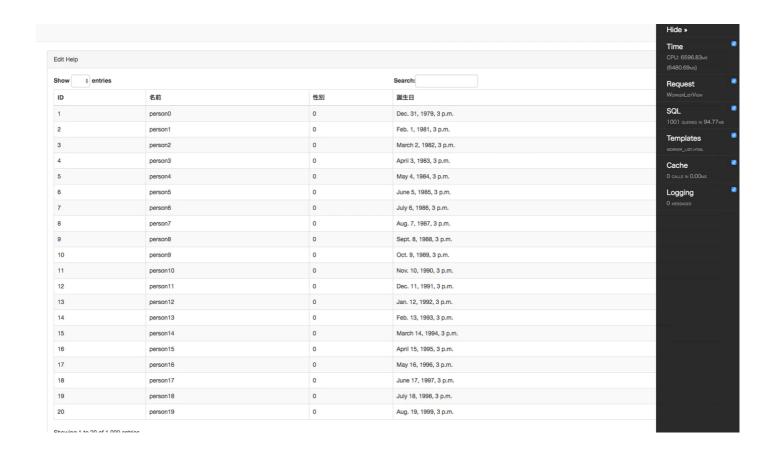
master directory (manage.py が置いてあるディレクトリを勝手にこう呼んでます。以下同様。)で以下を実行してstaticファイルを落としてください。

\$ python manage.py collectstatic

そうすると、assets というディレクトリができる(僕がみた説明ではstaticの中にできていましたが、そうなるように設定してるっぽかったので、多分デフォルトではassetsの中にできるんじゃないかと思います)ので、その中にあるdebug_toolbarというフォルダをごっそりstatic配下にコピーしましょう。

assetsディレクトリは不要なので、コピーしたあとは消してしまいましょう。

以上でDjango Debug Toolbarの設定が完了しました。 実際に表示されるか見てみましょう。



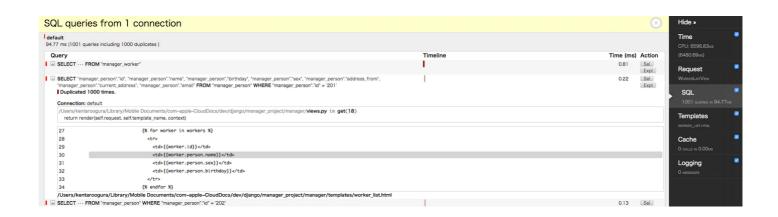
こんな感じに表示できました。

/worker_list/ のページを見ていますが、表示にかなりの時間がかかっていることがわかります。

SQLが1001回も投げられていて、表示に6.48秒もかかっています(クソサイトですね!!笑)

SQLのところをクリックして、実際どんなクエリが投げられているのか見てみましょう。

(多く投げられていそうなところの+をクリックすると中身 が見れます)



後半に説明する予定なので、今回は省略しますが、あまりに も遅いので解決策だけ紹介します。

views.py でクエリを作成するところを以下のように変更してください。

views.py

```
class WorkerListView(TemplateView):
    template_name = "worker_list.html"

def get(self, request, *args, **kwargs):
    context = super(WorkerListView, self).get_context_data

    workers = Worker.objects.all().select_related('person'
    context['workers'] = workers
```

これでリロードして見ましょう。

今度は投げられるクエリの数が1となり、表示までの時間は 0.25秒に短縮されましたね!

典型的なN+1問題という感じですね!

2章 ログイン機能の実装

ウェブアプリには欠かせないログイン機能を実装していきま す。

*公式ドキュメント

models.py を根本的に結構いじるので、エラーが出るのを防ぐため、前回作成したマイグレーションファイルとデータベースを消去しておきましょう。

(今回はPersonをログインできるようにして、色々変更しているため、特別です。でも、データベースを一掃したいときなど、たまにあるかもしれないので、やり方を紹介します。)

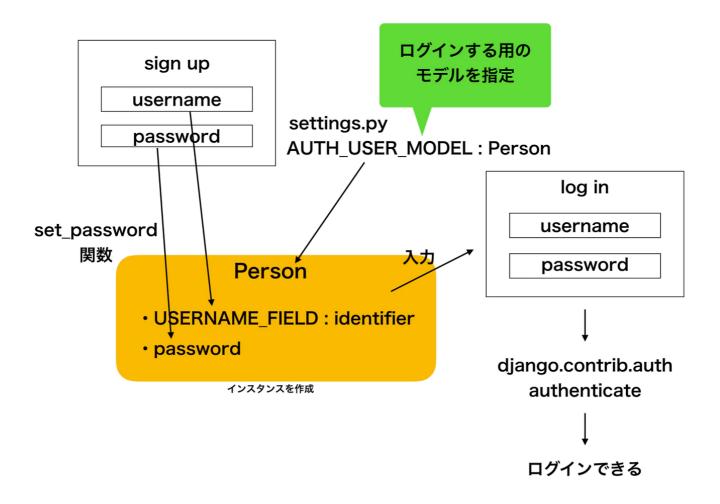
とは言っても、Djangoの標準ではsqlite3を使っているので、 ファイルを削除するだけで大丈夫です!

manager/migrations/ 配下の __init__.py 以外のファイルを全部と、 db.sqlite3 というファイルを消してください。

これだけで完了です!

早速ログイン機能を実装していきましょう!

概要図



概要は上の図を参考にしてください!

ログイン機能の実装

まずはPersonモデルを変えていきます。

コードは重要なところをピックアップして書いているので、 全体が見たい方は僕のGitHubのレポジトリを見てください!

* GitHubのコードはこちら

models.py

from django.contrib.auth.models import AbstractBaseUser
from manager.managers import PersonManager

class Person(AbstractBaseUser): #1
 objects = PersonManager() # 2

 identifier = models.CharField(max_length=64, unique=True, name = models.CharField(max_length=128)
 email = models.EmailField()

is active = models.BooleanField(default=True) # 必要です!

- 1) ログイン用に、AbstractBaseUserを継承します
- 2) Person.objects.create()の時にもちゃんと作れるように定義します(PersonManagerは下で書きます)
- 3) アカウント名のカラムを追加します

USERNAME_FIELD = 'identifier'

4) usernameというカラムがないので、代わりに identifier を使ってね、ということをDjangoに伝えます

```
PersonManagerを書きます。
manager/managers.py というファイルを作ってください。
managers.py
from django.contrib.auth.models import BaseUserManager
from django.utils import timezone
class PersonManager(BaseUserManager):
    def create user(self, identifier, email, password=None, **
        if not email:
            raise ValueError('Users must have an email address
        email = PersonManager.normalize email(email)
        person = self.model(
            identifier=identifier,
            email=email,
            **extra fields
        person.set password(password)
```

```
person.save(using=self._db)
```

return person

続いて views.py でログイン用のページの処理を書いていきます。

```
views.py
from django.contrib.auth.views import login
from django.contrib.auth import authenticate
class CustomLoginView(TemplateView):
    template name = "login.html"
    def get(self, _, *args, **kwargs):
        if self.request.user.is authenticated():
            return redirect(self.get next redirect url())
        else:
            kwargs = {'template name': 'login.html'}
            return login(self.request, *args, **kwargs)
    def post(self, _, *args, **kwargs):
        username = self.request.POST['username']
        password = self.request.POST['password']
        user = authenticate(username=username, password=passwo
        if user is not None:
```

```
login(self.request, user)
    return redirect(self.get_next_redirect_url())
else:
    kwargs = {'template_name': 'login.html'}
    return login(self.request, *args, **kwargs)

def get_next_redirect_url(self):
    redirect_url = self.request.GET.get('next')
    if not redirect_url or redirect_url == '/':
        redirect_url = '/worker_list/'
    return redirect_url
```

1) ここが一番のキモです! userを認証しています。 この authenticate 関数が何をしているか少し説明します。

Djangoのコードを見て見ましょう。
django/contrib/auth/backends.py に authenticate 関
数が定義されています。

```
backends.py
```

```
def authenticate(self, request, username=None, password=None,
   if username is None:
```

```
username = kwargs.get(UserModel.USERNAME_FIELD) # 2
try:
```

user = UserModel._default_manager.get_by_natural_key(u
except UserModel.DoesNotExist:

Run the default password hasher once to reduce the t
difference between an existing and a nonexistent use
UserModel().set password(password)

else:

if user.check_password(password) and self.user_can_aut
 return user

このコード、テクってますよね!笑

if と else の間に try-except を挟んでますが、どう処理 されるかわかりづらいですよね。

簡単に言えば、if にひかかっても else の処理は受けるっていうのがここでのテクニックなのですが、自分で簡単な関数を作ったりして確かめてください!

- 2) username のカラムがないときは USERNAME_FIELD に定義されてるカラムを取りに行く
- 3) username をkeyにしてオブジェクトを取得している
- 4) パスワードが正しいかcheckしている

これらを有効にするために、 setting.py に以下を追加します!

僕がちゃんと目を通せてないだけかもしれませんが、なんかドキュメントとかstack overflowとかに書かれていなくて、結構困った記憶があります。

そういうときは、djangoの元コードをみて、どういう処理が 走っているかを確認すると解決しますよ!

```
# user authentication

AUTHENTICATION_BACKENDS = (
   'django.contrib.auth.backends.ModelBackend',
)

AUTH_USER_MODEL = 'manager.Person'
```

あとは urls.py にlogin用のurlを定義して、 login.html も 追加しています。

長くなるので、ファイルはGitHubレポジトリを確認してください!

マイグレーションファイルとデータファイルを一掃したので、作り直します。

master directory から以下を実行します。

```
$ python manage.py makemigrations
```

\$ python manage.py migrate

では、ちゃんとログインできるか確かめてみましょう! 一人Personを使ってログインしてみます。

```
$ python manage.py shell

# from manager.models import *

# import datetime

# person = Person(identifier="gragragrao", name="gragragrao", "

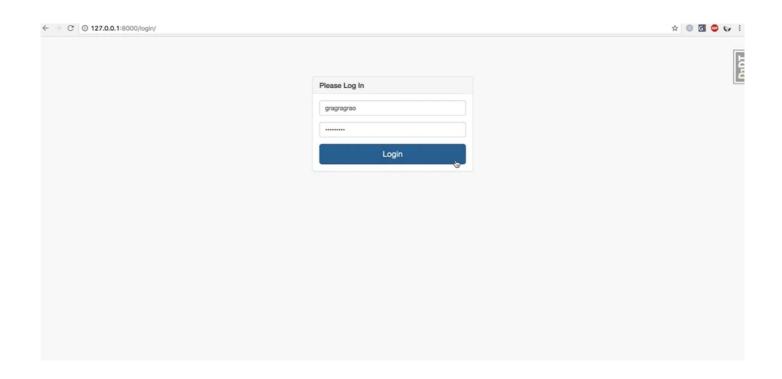
# person.set_password("grao_pass")

# person.save()
```

これでログイン用のpersonができました!
user名は gragragrao 、パスワードは grao pass ですね。

ではログインできるか確かめてみましょう!

(WorkerListView も少し変更しているので注意してください。)



ログアウト用のエンドポイントを作成してこの章を終わりに したいと思います。

(登録用のページはformが絡むのであとで作成しようと思います。)

ログアウト

```
<a href="/worker list/"><i class="fa fa-bar-chart" aria-</pre>
  <a href="/logout/"><i class="fa fa-bar-chart" aria-hidde</pre>
views.py
from django.contrib.auth import logout
def logout view(request):
    logout(request)
    return redirect('/login/')
urls.py
from django.contrib.auth.decorators import login required # ?
urlpatterns = [
    url(r'^logout/', manager view.logout view),
    url(r'^worker list/', login required(manager view.WorkerLi
```

これで2章は終わりです。

複雑だったので、うまくいかないなどあればコメントをくだ さい。

第3章 Hijack機能の実装

この章では、Hijack機能を実装していきます。

自分が管理者なら、登録しているユーザーとしてログインしたい場面があると思います。

そんなとき、登録ユーザーのパスワードを知らなくてもログ インできるのがHijack機能です。

簡単なのでさっと実装しましょう!

ドキュメントに従います。

```
settings.py

INSTALLED_APPS = [
   'django.contrib.admin',
   'django.contrib.auth',
   'django.contrib.contenttypes',
```

```
'django.contrib.sessions',
   'django.contrib.messages',
   'django.contrib.staticfiles',
   'debug_toolbar',
   'manager',
   'hijack',
   'compat',
]

# hijack
HIJACK_LOGIN_REDIRECT_URL = '/worker_list/'
HIJACK_LOGOUT_REDIRECT_URL = '/worker_list/'
HIJACK_ALLOW_GET_REQUESTS = True
HIJACK_USE_BOOTSTRAP = True
```

INSTALLED_APPS に hijack と、依存性のある compat を 追加します。

django-adminのconfigページに色々設定が書いてあります。

設定 説明 Defa

設定	説明	Defai
HIJACK_DISPLAY_WARNING	hijackしていることを示 す黄色いバーを表示す るかどうか	True
HIJACK_USE_BOOTSTRAP	Bootstrapに最適化する かどうか	Falso
HIJACK_URL_ALLOWED_ATTRIBUTES	userがどの属性を通し てHijackされることがで きるか	下記参
HIJACK_AUTHORIZE_STAFF	is_staff=True のuser が他 の is_staff=False の userに対してhijackでき るか	Falso
HIJACK_AUTHORIZE_STAFF_TO_HIJACK_STAFF	is_staff=True のuser が他 の is_staff=True の userに対してhijackでき るか	Falsı
HIJACK_LOGIN_REDIRECT_URL	hijackした時にどのURL にリダイレクトされる か	settings.LOGIN_R
HIJACK_LOGOUT_REDIRECT_URL	hijackをreleaseした時に どのURLにリダイレクト されるか	settings.LOGIN_R
HIJACK_AUTHORIZATION_CHECK	hijackできる権限を決め る関数	'hijack.helpers.is_au ⁻ (下記参
HIJACK_ALLOW_GET_REQUESTS	hijackがGETできるかど うか	Falso

HIJACK_URL_ALLOWED_ATTRIBUTES につ いて

Default: ('user_id', 'email', 'username')

Djangoが捌けるURLは以下のようになっています。

つまり、 email のフィールドが example@example.com の personに対してなら、 /hijack/email/example.com/ で Hijackできるんですね。

Django-hijackの中のコードを見ましたが、このDefault以外のカラムは使えないです。 email だけでしかHijackできないようにしたい!とかなら、 ('email') に設定すればできます (カラムを減らすことはできても増やすことはできない感じですね)。

HIJACK_AUTHORIZATION_CHECK につい て

Default: 'hijack.helpers.is_authorized_default'

Defaultの関数はこんな感じです↓

```
def is_authorized_default(hijacker, hijacked):
    if hijacker.is_superuser:
        return True

if hijacked.is_superuser:
        return False

if hijacker.is_staff and hijack_settings.HIJACK_AUTHORIZE_:
        if hijacked.is_staff and not hijack_settings.HIJACK_AU'
        return False
        return True
```

Personにhijackで使われる以下の属性を追加していきます。

```
models.py
```

```
class Person(AbstractBaseUser):
    # hijack機能の実装に必要
    is_admin = models.BooleanField(default=False)
    is_staff = models.BooleanField(default=True)
    is_superuser = models.BooleanField(default=False)
```

urlに以下を追記します。

```
urls.py
url(r'^hijack/', include('hijack.urls')),
```

base.html の header に {% load hijack_tags %} と % link rel="stylesheet" type="text/css" href="{% static 'hijack/hijack-styles.css' %}" /> , body の直下に {% hijack_notification %} を追加します。

このあたりの実装がわかりにくい人は、僕のGitHubコードを 参照してください。 実装はこれで以上になります。 ちゃんと動くか確かめて見ましょう。

- \$ python manage.py makemigrations
 \$ python manage.py migrate
- でモデルの変更をDBに適応して、以下のよう
 に is_supersuser=True のPersonを作っていきます(これが管理者という想定です)。

これで完成です。

is_superuser=False のPersonがいない場合は適宜作ってください。

これからhijackするPersonは、 id=1, email='example@example.com'(uniqueな値) とします。

この場合、 is_superuser=True のPerson(上で作った grao_super)でログインしたあと、hijackのURLを打てば hijackできます。

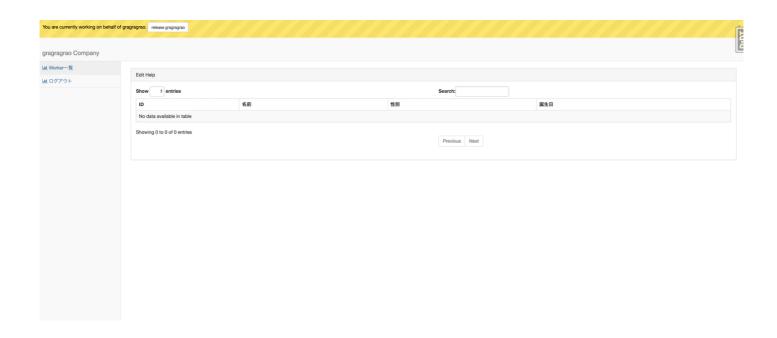
python manage.py runserver 8080

ログインして、

http://localhost:8080/hijack/1/

http://localhost:8080/hijack/email/example@example.com/

にリクエストを送ると、以下のようにhijackできます。



release gragragrao をクリックすると、hijackを解除できます。

以上です。